学校経営推進費　評価報告書（最終）

１．事業計画の概要

学校名	大阪府立槻の木高等学校
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	・　国公立大学への現役合格者の増加 ・　一日平均学習時間の増加。 ・　学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の向上
計画名	～主体的・対話的で深い学びの実現～　槻の木「探究する授業」プロジェクト

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	１　学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶 （１）　大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。 ア 新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導と評価の研究を行なうことで、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の向上のための取組みを推進する。 ※ 令和４年度において、学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を 84%にする。（H29：71%、H30：75%、R１：75%） イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。 ※ 令和４年度において、国公立大学現役合格者を 22%以上にする。（H29：14.6%、H30：13.7%、R１：6.7%） ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。 ※ 令和４年度において、一日平均学習時間（２年生 10 月）110 分以上を維持する。（H29：94 分、H30：95 分、R１：107 分） エ 「槻の木 NEXT STAGE」（企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など）の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。
事業目標	ICT を活用した「主体的・対話的で深い学びの実現」のための継続的な「探究する授業」の研究を推進し、「興味・関心が湧く授業」「体験・発表型授業」に取り組むことで、生徒の学力及び学びに向かう力を育てる。 もって、「R３年度において、国公立大学合格者現役 20%以上をめざす。」を、「H31 年度に 16%、R２年度に 19%、R３年度に 22%以上をめざす」に変更。また、「R３年度において、一日平均学習時間 100 分以上（２年生 10 月）を維持する。」を「H31 年度に 100 分、R２年度に 105 分、R３年度に 110 分以上にする」に変更する。さらに、「学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」を H30 年度の 75%から毎年３%引き上げ、R３年度には 84%にする」を付加し、その実現をめざす。
整備した設備･物品	・すべての教室（18 教室）への短焦点プロジェクターの設置。

取組みの 主担･実施者	主担者： 槻の木「探究する授業」プロジェクトチーム（教頭、事務長、首席、教科代表者、情報係） 実施者： 全教員の８割程度。
本年度の 取組内容	・教員が授業でプロジェクターやタブレット端末を使用する際の補助。 ・前期（６月）、後期（10 月）共に Google Classroom 上の全科目及び HR、部活動の各クラスルームへ、全校生徒が入室。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で欠席した生徒への学習保障として、オンライン授業の配信。 ・教員向け Chromebook、プロジェクター研修の実施（10 月 29 日）。 ・全生徒への Chromebook の貸し出し（11 月２日）の指導をサポート。 ・研究授業を前期（５～７月）、後期（10～12 月）に全教科で実施。プロジェクターやタブレット端末を活用した授業が多く見られた。 ・府立学校等への公開研究授業・研究協議を実施（２月８日）。
成果の検証方法 と評価指標	① 国公立大学現役合格者を 22%以上にする。 ② １日平均学習時間（２年生 10 月）を 110 分以上にする。 ③ 学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」を 84%にする。
自己評価	今年度は、昨年度に引き続き、本事業のプロジェクトチーム（探究 PT）による事業実施と共に、新型コロナウイルス感染症対策に伴うオンライン授業や GIGA スクール構想の実施、生徒１人１台端末の推進を行う学校運営室総務課と合同で事業を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を進めることができた。 ① 国公立現役合格者は、15%【令和２年度 10%】 ･････････････････････････ （△） ② 令和３年 10 月の２年生一日平均家庭学習時間は平日 84 分、休日 131 分【令和２年度平日 95 分、休日 138 分】･･･ （△） ③ 学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」は、87%【令和２年度 84%】 ･････････････････････････････････････ （◎）
事業のまとめ	本事業による電子黒板機能付きプロジェクターの導入により、本校の授業の様子は一変した。導入以前もプロジェクターを用いて授業を行う教員は見られたが、授業のたびにプロジェクターを搬入し設置する作業が必要であった。その手間から ICT 機器を用いずに授業を行っていた教員が多かったが、教室にプロジェクターが設置されると、それまでチョークのみで授業をしていた教員が ICT 機器を用いて授業をするようになった。プロジェクターを授業で使用している教員からは、「口頭で説明していたことを写真や動画とともに伝えることで生徒の理解を深めることができた。」「黒板に板書していたことをプロジェクターで映すことで、授業の時間効率が向上した。」などの肯定的な声が多く聞かれた。また、授業の中で、生徒自身が作成した資料を投影し、発表する姿が見られた。このような取組みが学校教育自己診断（生徒）における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」のポイントが向上している一因であり、さらに広がっていくことで本事業の目的である「主体的・対話的で深い学び」を実現させることができると考える。 今年度より、GIGA スクール構想によって学校内の Wi-Fi 設備が整えられ、生徒１人１台端末も導入された。これにより、本事業で導入されたプロジェクターの使用頻度はさらに高まる。新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった先進校視察・報告会も実施できていれば、他校の取組みを共有することでプロジェクター等の機器の活用はさらに広がっていたと思われる。